［有明抄］（2018.4.3）

○「還暦」とは何歳のことだろう。なぜそのように呼ぶのだろう（理由・由来）。

歳のこと：（理由・由来）

○「還暦」以外に年齢の区切りを表すことばとその理由・由来を調べてみよう。

歳	ことば（読み方）	理由・由来

○志賀直哉の作品を読んでみよう。

さが維新塾

年　組　号（氏名）

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

新しい環境は誰しも苦手だ。「よろしくお願いします」。あいさつしようにも、なぜか声がうまく出ない。初めての職場、初めてのクラスメート。「緊張しているな」。そう思うとますます緊張する◆〈スタートのポーズに迷う年男〉。読者文芸欄選者の小松多聞さんの川柳だ。昨年の新春詠に載っていた。なぜ今ごろ年男の話？　という声がしそうだが、戌年、もうすぐ還暦の身でこの欄の担当になった◆私事ながら、小説との出会いは、志賀直哉の「清兵衛と瓢箪」「小僧の神様」が最初。中学生の時、悪ふざけばかりしていたので、困った先生が読むよう勧めた。夏目漱石も井上靖も感想文を書かされた。貧本屋にも通った。1冊20円で月刊漫画「冒険王」を借りてきて、むさぼり読んだ。だから母が「漫画のおかげで少しは頭がよくなった」と今も思っている◆誰も見ていないのに、しきりにポーズをとってみる。一生懸命さと、それゆえの切ない姿。小松さんの句には、そんな人々を見守る温かなまなざしがある◆新年度。何枚もエントリーシートを書き、就職を決めた人もいるだろう。家族の思いを感じながら新しい"戦場"を下げて校門をくぐる人もいるだろう。スタートラインでは戸惑いも、迷いもある。それでも、ひたむきに生きようとする姿に、一筋の光を見いだしていきたい。（丸）

35　30　25　20　15　10　5